

## 2026年1月度 高島屋店頭売上速報

### ■ 国内百貨店売上高 (前年比 単位:%)

大阪店	+8.2	大宮店	+12.7
堺店	△44.4	柏店	※2 +2.4
京都店	※1 +1.6	E店	+16.3
泉北店	+2.4	(株)高島屋各店計	+7.0
日本橋店	+15.8	(株)高島屋各店既存店計	※3 +7.7
横浜店	+8.5	岡山高島屋	△1.2
新宿店	+2.0	高崎高島屋	+1.7
玉川店	+16.0	国内百貨店計	+6.7
		国内百貨店既存店計	※3 +7.4

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準(総額売上高)で開示しております。

※1 京都店は「洛西店」の売上高を含みます。

※2 「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高を含みます。

※3 本年1月7日に営業を終了した「堺店」の本年・前年実績を控除しています。

### ■ 概況

- 前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高+6.7%(※+7.4%)、免税売上高△18.9%、免税を除いた店頭売上高+11.2%(※+12.0%)となりました。
- 国内顧客は、気温の低下にともないコートなどの冬物衣料(正価品)に動きがみられたことや、食料品が堅調に推移したことで前年実績を上回りました。  
 インバウンド顧客については、中国による「訪日自粛要請」の影響等もあり、前年実績を下回りました。
- 店舗別売上高は、大阪店、京都店、泉北店、日本橋店、横浜店、新宿店、玉川店、大宮店、柏店、EC店、高崎店が前年実績を上回りました。
- 商品別売上高(当社分類)は、紳士服、婦人雑貨、特選衣料雑貨、宝飾品、子供情報ホビー、スポーツ、食料品、食堂、サービスが前年実績を上回りました。